12月議会定例会のあらまし

平成21年12月内子町議会定例会は、12月17日～25日まで9日間の会期で開かれました。17の町長提出案件（条例の制定・改正8件、工事変更請負契約1件、補正予算6件、その他2件）が審議され、原案どおり可決されました。

行政報告

内子町長　稲本　隆壽（たかとし）

政権交代に伴う行政運営

今年の流行語大賞は「政権交代」に決まりました。8月の衆議院議員総選挙で自由民主党を中心とする政権から民主党を中心とする政権になったことを象徴する言葉として、今後歴史に刻まれるのだろうと思います。

内子町政では、29年間という長い歴史を刻んだ河内前町長が勇退され、1月の町長選挙で町民のご支援を得て、わたしが町政のかじ取り役をまかせていただきました。これまで進めてきた内子町総合計画を基本に「子どもたちに夢を」「お年寄りに安心を」「働く人に元気を」を公約に町政運営に当たっています。

鳩山政権の誕生によって大幅な政策転換が進められており、20・21年度にかけての自公政権による補正予算や経済危機対策の臨時交付金事業がどうなるのか心配していました。しかし、地域イントラネット事業やブロードバンド整備事業、土地改良事業、町道・農林道整備、学校耐震調査事業、公共施設の改修など、これまで財源不足のために取り組めなかった約13億円の事業には大きな影響もなく、順次、執行しています。

国では、95兆円という過去最大規模の新年度予算の概算要求が出されています。子ども手当の創出など福祉政策の拡充、雇用や環境政策の推進など、歳出面での増加要因が目白押しの一方、ひも付き補助金から一括交付金へ、暫定税率の廃止、高速道路無料化、農家への戸別所得補償制度などの政策が掲げられています。しかし、ゆるやかなデフレ現象の経済状況下にあって、今年度の税収は37兆円まで落ち込むことが予測され、国債発行残高は600兆円を超える見通しだといわれています。

本年度予定されていた子育て応援特別手当が突然廃止となり、新年度からは月額2万6千円（22年度は1万3千円）の子ども手当を支給するとの方針が出されています。内子町では2千347人、約3億6千600万円規模になります。現在の児童手当と同様に町の財政負担が必要になるのではないかと、動向が気掛かりです。

地域医療の再編・充実を図るための八幡浜・大洲地域医療再生基金は、医療圏域で100億円が予定されていましたが、25億円に減額されました。今後の影響が心配されます。

また後期高齢者医療制度を廃止する議論もあり、今後の保健医療制度、年金制度がどう変わっていくのか不透明です。新たな制度改革となると、さらなる地方の財政負担や被保険者の混乱も予測されます。

道路特定財源の暫定税率廃止問題で、内子町の場合は、自動車重量譲与税、地方道路譲与税、自動車取得税交付金などを合わせて、約1億円の減少が見込まれます。総務省は新年度に地方交付税の1兆1千億円の増額要求をしていますが、これが認められたとしても、暫定税率廃止となれば同額程度になってしまいます。鳩山政権は地方交付税の「地域主権」「地方配慮」を唱えていますので、期待しながら推移を見守りたいと思います。

いずれにしても、国の動向や地方自治体の財政事情などに目を凝らしながら、行財政運営に当たっていきたいと思います。

【内子座座長の全国公募】

内子座は、町民有志の寄付により、大正天皇の即位を祝して大正5年に建てられた木造の歌舞伎劇場、芝居小屋です。時代の流れの中で映画館や商工会事務所などの変遷を重ねながら、昭和60年に、伝統的な建造物を生かして使うという理念により、県の補助金を活用して創建当時の姿に復原しました。その後は観光施設として、また世界文化遺産に登録されている文楽や、歌舞伎、演劇、コンサート、町民によるカラオケ大会やピアノ発表会など、幅広い分野の劇場として利用されています。

年間入館者数は、平成7年度の7万7千人をピークに年々減少しており、20年度は4万6千人と、ピーク時の60パーセントになりました。原因として、文楽や歌舞伎は好評を博している一方、以前は内子座らしい上演に取り組んでいた町民の自主興行グループなどが休会、または解散していることも大きく影響していると考えられます。

内子座の全国的な認知度は高まっているものの、まだ、あの風格のある建物を生かしきっていないと感じています。内子町に経済効果が生まれる仕組みが必要であり、地域経済を少しでも動かしていきたいとの思いから、このたび優れた人材を得るために、内子座の座長を全国に公募しました。マスコミを通じた全国への情報発信により、10月20日～11月20日の1カ月の公募期間に、53人の応募がありました。県内はもとより、東京や大阪、京都、神奈川など全国各地から、20～70代まで、女性も10人が手を挙げてくださっています。

現在、県内から5人の外部審査員を迎え、内部3人の審査員と共に、第1次審査に向けて準備中です。今月中に第1次審査を行い、来年1月中旬に第2次審査（面接・面談）を実施、2月末日までには座長を決定したいと考えています。座長の採用は、22年7月1日からの予定です。

町内外へアピールするため、内子座ならではの興業や地域に伝わる伝承芸能などを素材にした催しを企画し、職員はもとより、町民の皆さんと共に取り組んでいきたいと考えています。

歌舞伎劇場「内子座」

【国道379・380号の進捗状況】

国道379号内子東バイパスは、現在の道路は幅員が狭く、カーブが多くて見通しの悪い1車線区間が多くあり、歩行者の安全や円滑な通行が阻害されるため、平成4年度に施工総延長5.4キロの工区として県が事業着手しました。これまでに、大瀬地区の2.7キロと吉野川地区の1.2キロが部分供用されています。今年度には、柳瀬トンネルを含む内子東バイパス区間1.3キロの供用開始が予定されており、21年度末の進捗率は96.3パーセントとなります。22年度には残りの0.2キロ区間も供用が図られ、内子東バイパス計画区間がすべて改良済みになる予定です。

工事が進む国道379号の柳瀬トンネル（路木側）

国道380号寺村バイパスは、幅員が狭く、線形不良カ所が多くあったため、昭和63年度に施工総延長4.9キロの工区として事業化されました。これまでに4.4キロが供用されており、21年度末の進捗率は89.8パーセントとなっています。残る突合橋付近の0.5キロも25年度完成を目指して事業が進められています。

国道380号小田バイパスは、20年度まで2車線のバイパスとして整備が進められていましたが、今後は生活道として早期に利用が図れる1.5車線的整備に移行することとなりました。特に幅員が狭く見通しの悪い所を22～24年度までに3カ所0.333キロ、25～27年度までに4カ所0.51キロを局部的に改良する計画となっています。

なお、内子東バイパスはほぼ完成し、今年度に柳瀬トンネルと筏流（いかだながし）橋が完成する運びとなっていることから、国道379・380号期成同盟会主催の開通式を22年2月中～下旬に計画しています。

国道380号寺村バイパス